

令和4年度 第1回 伊東分校学校運営協議会（報告）

静岡県立東部特別支援学校伊東分校

【出席者】

- <運営協議会員> 伊東分校ゲストティーチャー
伊東市立さくら園園長
湯の花共栄会役員
伊東市立西小学校PTA母親副会長
東部特別支援学校伊東分校PTA会長
- <学 校> 副校長、小学部主事、中学部主事

【日 程】 令和4年6月9日（木） 於 伊東市立西小学校第1会議室

- 1 副校長挨拶 9:30
- 2 学校運営協議会会員委嘱伝達及び自己紹介
- 3 校内参観 小低→ 小高 →中 9:45
- 4 伊東分校の学校経営計画と取組について 10:20
 - (1) 伊東分校の概要説明（副校長）
 - ア 特別支援教育と県内の特別支援学校 ⇒「静岡県の特別支援教育」参照
○県内の特別支援学校の配置および校種について
○分校の配置について
 - イ 学校の概要 ⇒「学校案内」パンフレット 参照
○東部本校と分校の関係
○伊東分校と伊豆高原分校の関係
○分校設置以来のあゆみについて
 - ウ 令和5年度学校移転について
○4年度末で西小閉校、東小校地に移転統合、伊東分校は旭小校地に移動
○但し、令和5年度に入ってから改修工事になるので、移転は年度途中になる。
○それまでは、現校地を使用することになる。
 - (2) 令和4年度学校経営計画（別紙 学校経営計画書）
 - ア 学校経営計画（副校長） ⇒「学校経営書」参照
○主に重点項目を説明
○その他に「つなぐ」地域および併置校との関係の部分を加えて説明
 - イ 各学部の経営（部主事）
○各学部から本年度の計画の概要を説明
 - (3) 学校運営協議会の役割等について（副校長）
 - (4) 教職員のコンプライアンス（法令順守）の取組について（副校長）
○コンプライアンス研修計画を提示
 - (5) 質疑応答、意見聴取 ←より良い伊東分校になるため これからの伊東分校のため
 - 地域との交流について
 - ・湯の花商店会では、七夕その他で交流を行っている。コロナ禍で直接的な交流に限られるため、商店街でも、直接関わる関係者しか様子が分からない状況が続いている。七夕等の行事以外でも、もっと日常的な関わりがもてるとよい。
 - ・分校に通学している自分の子供が休日に湯の花で買い物をした時に親切に対応してもらった。日頃からの関わりあつての賜物だと思う。旭小移転後、遠くなくても、この関係を維持していきたい。

- これまでの商店街との関わりを続けていくと共に、移転を逆に機会ととらえて、旭小周辺の町内との関わりを新たに拓いていくことも大切だ。
- 子供たちは、地域で生まれ、多くが地域で生涯を送ることになる。地域で一緒に生活できる社会を作ることがなにより重要だ。交流はそれを考えて進めていくべき。
- 若いころ、自身が「信楽青年寮」を訪ね、故池田太郎先生から教えてもらった「映え合いの教育」という言葉を思い出す。障害のある人とそうでない人とが、共に暮らし互いに関わりあうことで、互いの映え合いによって、地域が変わっていくと信じたい。

■教育/福祉の継続性

- 小学部低学年を見ていて、往時より落ち着いて学習していると感じる。市内の児童発達支援事業所である「さくら園」などからあがってきている児童が多いと思われるが、そこからの積み重ねがあつてのことだと思う。
- コロナ禍で、仕事で学校を訪ねる機会があつても、児童生徒と触れ合ったり、つぶさに生活の様子をうかがったりすることができなかつた。今日はとても良かった。児童発達支援事業所⇒学校⇒地域という、継続した流れがしっかり構築されることが望ましい。

令和4年度 第2回 伊東分校学校運営協議会（報告）

静岡県立東部特別支援学校伊東分校

【 日 程 】 令和4年12月3日（土） 於 伊東市立西小学校第1会議室

- 1 校長挨拶
- 2 伊東分校の学校経営計画と取組について
 - (1) 伊東分校の概要および令和5年度の学校移転について (校長)
令和4年度末で閉校・統合予定の現在の伊東市立旭小校地への移転計画について
 - (2) 学校移転スケジュールおよび移転後の学校運営について (校長・副校長)
教育課程（年間計画、給食、行事）
管財・敷地内管理
バス運行、保護者送迎を考慮した日課編成、新しい交流計画の検討
 - (3) 前期学校経営の重点及び教職員評価について (副校長)
今年度から前期は、重点事項（予防安全、情報機器活用対応、移転業務）を評価
教職員が予防的な目で環境を確認できるようになったことは成果と思われる。
情報については、コロナ禍の中でできることから進めてきた。まだ不十分な面、
機器への習熟度の違いなど課題が大きい、活用事例の共有と職員間でのOJT
を基本として、新しい学校環境でより有効に使っていただけるようにしたい。
 - (4) 各学部の教育について (小・中学部主事)
 - 小学部から
 - ・コロナ禍であったが、校外学習や修学旅行などの行事もほぼ恙なく進めることができた。
 - ・本年度が同一校舎での最後の交流機会となる西小との交流について、2学期以降は、学年ごとに直接交流を行うこともできた。
 - 中学部から
 - ・湯の花商店街とは、これまでも七夕交流や作業班のビーズ看板製作など深い関わりをもっている。
 - ・北中とは、コロナ禍以来、全く直接交流の機会がもてなかったが、本年度は、試みに清掃活動を通じた交流を企画し、久しぶりに同校を訪問することができた。
 - ・修学旅行はコロナ禍以前には名古屋を目的地としていたが、本年度は感染防止等を考慮して、近場の箱根を目的地に企画した。様々な乗り物に切符等を購入して乗る体験、箱根の秋の自然に触れると共に、ホテルでの宿泊体験など、将来の余暇につながる学習ができたと思う。

ファミリー参観日授業参観

3 質疑応答、意見聴取

・参観の感想

「児童生徒が落ち着いて活動できていると感じた。これまでの学習の成果と共に、集団が大きすぎず、配慮された学習環境・生活の成果と感じた。」

「今までは狭隘な環境であったので、教材教具もスペースも限られた中で精いっぱい工夫して活動してきたと思う。これから新しい環境に移るにあたって、次の環境が十分分からない段階での物品の選別は難しいだろうが、そこで必要なものを選別し始めてもよいのではないか。」

・移転後の学校環境について

「予算面など制約はあるだろうが、学習環境整備は必須であり、校長会やPTAなど様々なチャンネルで、県に要望を伝えてもらいたい。」

- 共生・共育について

「スクールバスの利用やICT活用で交流の密度を落とさないようにしてほしい。」

「移転先の地区には、地域の環境整備や防災教育などにも広く関わっている著名な方もいるので協力をお願いしてはどうか（具体的に氏名等の紹介あり）。」

「地元説明会后、そうした方に連絡をとり、地域との連携で力になってもらったらどうか。」

- 地域の今後を見据えて

「今後も地域の児童生徒数の減少が予想される。特別支援学校の整備・再編を検討される際、東豆地区の将来設計の中へ、現場としての思いを伝えていくことが必要ではないか。伊東分校は子どもたちに適した環境・施設・設備を備えた自立した県立学校となしてほしい」

「特別支援教育の動向、共生社会への変革等にも中止しつつ、地域と共生する学校として役割を果たしてほしい」